

【参考資料４】用語集

用語・略語（対応英語）	説明
アクチニド	元素の周期表における、原子番号８９のアクチニウムから１０３のローレンシウムまでの１５の元素の総称。アクチノイドともいう。
アスペリティ	強震動生成領域の略語。 地震を起こす震源断層面の中で、地震時に特に大きなゆれを放出する領域で、すべり量の大きな領域を「アスペリティ」、すべり速度の大きな領域を「SMGA」と呼ぶ。両者の位置はほぼ等しいとされている。
アニュラス	格納容器と原子炉建屋の間に設けている気密性の高い空間。
安全係数	設計において、様々な不確定要素を考慮するために用いる数値。安全率ともいう。
位相	周期的な運動をするものが一周期のうち、どのタイミングにいるかを示す量。
一次元波動論	振動が媒質中を伝播する現象を１次元的に考慮したもの。
イベントツリー	事故シーケンスを樹形状の論理構造図にしたもの。確率論的リスク評価(PRA)に用いられる。
ウォークダウン／プラントウォークダウン	机上検討の情報に基づき、実際に現場に行って機器などを巡視すること。
エクセスLOCA	設計基準事故で考慮している配管の大破断による原子炉冷却材喪失事故(LOCA)を、さらに上回る規模のLOCAのこと。(→LOCA)
エリアモニタ	発電所従業員を放射線被ばくから防護するため、そのエリアの放射線量を監視及び表示するための設備。
オービット	地震による揺れの軌跡。
応答スペクトル法	過去の地震記録の地震規模(マグニチュード)、震源から観測点までの距離及び地震による揺れの大きさ(応答スペクトル)の関係から導かれた式により作成する方法。
応力解析モデル	機器に発生する応力を求めるモデル。
応力降下量	断層が破壊すると、そこにひずみとして蓄えられていたエネルギーが解放されるため、岩盤中の応力が降下する。応力降下量は、この断層破壊時の直前と直後の応力の差のこと。

用語・略語（対応英語）	説明
海水ストレーナ	海水系機器の損傷を防止するため、海水中のゴミ等を除去する設備。
解放基盤（面）	おおむね第三紀層及びそれ以前の強固な岩盤であつて、著しい風化を受けておらず、さらに基盤面に著しい高低差が無く、ほぼ水平で広がりのある基盤の表面のこと。
カイン	地震動の最大速度で、1秒間にどれだけ変位するかを表す単位。1カイン=1cm/秒
格納容器過圧破損	格納容器内へ流出した高温の原子炉冷却材及び熔融炉心の崩壊熱等の熱に伴い発生した水蒸気、ジルコニウム－水反応等によって発生した非凝縮性ガスの蓄積により、格納容器圧力が上昇し、格納容器の破損に至ること。
格納容器再循環サンプ	格納容器内にスプレイされた水などが集められる槽で、燃料取替用水タンクの水が無くなった後は、この槽に集められた水を水源とし、再度スプレイ等を行う。
格納容器再循環ユニット	通常運転中において格納容器内の温度を一定に保つ設備。また事故時に格納容器圧力が異常に上昇した場合、格納容器内を冷却、減圧する設備であり、内部にある冷却コイルに冷却水を通水して格納容器内の水蒸気を冷却・凝縮させる。
火砕物密度流	火山噴火で生じた火山ガスと火砕物（火山灰や火山礫など）の混合物が斜面を流れ下る現象の総称。
火線強度	森林火災の燃えている部分の火炎の強さのこと。この火線強度から森林火災による発電所敷地内への延焼防止のために設置する防火帯の幅を算出している。
カップリング	組合せ。
過渡挙動	プラントのある状態から変動があったとき、次の安定状態に至る間に起こる圧力、温度、流量等の動き。
乾式保管	使用済燃料の保管方法のひとつで、乾式キャスクとよばれる金属などでできた丈夫な容器（キャスク）に使用済燃料を収納して密封保管する方法。キャスクは、表面から使用済燃料の熱を外気により冷却する除熱機能、中性子吸収材を加えた仕切板による臨界防止機能などの安全機能を持つ。

用語・略語（対応英語）	説明
貫通クラック	配管内径の 1/2 の長さで配管肉厚の 1/2 の幅を有する配管貫通部。
基線長	GNSS 観測点間の距離のこと。（→GNSS）
（重力異常の）急変帯	地下の岩盤の密度の違い等により重力値が急激に変化する帯状の領域。
強震動予測レシビ	政府の地震調査研究推進本部による「震源断層を特定した地震の強震動予測手法（「レシビ」）」のこと。地下構造モデル、強震動計算などの考え方について取りまとめており、断層モデルによる地震動評価に用いる。
強度－1 σ	強度の代表値（試験結果の平均値）から、データのばらつきの大きさを示す標準偏差の 1.0 倍の値を差し引いた値のこと。
極限支持力度	地盤がせん断破壊を生じずに支持できる最大の荷重のこと。
近地項、遠地項、中間項	地震による揺れを計算する理論式では、震源からの距離に応じた 3 つの式の足し合わせで表され、 ・近い距離しか伝わらない揺れを表す式（近地項） ・遠い距離まで伝わる揺れを表す式（遠地項） ・その中間の揺れを表す式（中間項） から成る。
クライテリア	判断の基準。
経験的グリーン関数法	実際に発生した小さな地震の観測記録のうち、地震動評価に用いるのに適切な観測記録を足し合わせ、大きな地震による揺れを計算する方法。経験的グリーン関数法では、実際に発生した観測記録を用いるため、震源から敷地までの地震波の伝わり方が適切に反映されている。
軽水炉	中性子と衝突して中性子速度を下げる減速材及び炉心で発生した熱を取り除くための原子炉冷却材として、軽水を使用する原子炉のこと。
けつがん 頁岩	泥が固まってできた岩石のうち、薄く割れやすい性質をもつもの。
原子炉下部キャビティ	原子炉容器の真下にある空間。
原子炉トリップ	制御棒の挿入によって原子炉を緊急停止すること。原子炉スクラムともいう。
原子炉補機	原子炉の運転に必要なポンプなどの設備。

用語・略語（対応英語）	説明
高圧注入系	非常用炉心冷却設備の一つ。冷却材喪失事故時に原子炉の圧力が高いうちから有効に機能する注水設備。高圧注水系ともいう。
高エネルギー配管	プラントの通常運転時に運転温度が 95℃を超えるか、又は運転圧力が 1.9MPa（ゲージ圧力：大気圧を基準に測定した圧力）を超える配管。
剛構造	建物や機器等が外力を受けても変形を起こしにくい丈夫な構造。
更新ソースターム	米国の原子力規制委員会の報告書である N U R E G - 1 4 6 5 に示されている、事故時に格納容器内に放出される放射性物質の放出割合や放出期間等のこと。
固有周期	地震力を受けた建物・構造物や機器・配管がもつ振動特性に応じて、早く揺れたり、ゆっくり揺れるりする。このような物体の固有の揺れの周期を固有周期という。
固有振動数	地震力を受けたときに、建物・構造物及び機器・配管がその振動特性に応じて、早く揺れるのかゆっくり揺れるのか、この揺れの振動数をその物体の固有振動数という。
固有値解析	固有周期やその固有周期での振幅など、建物・構造物や機器・配管などが持っている振動的な特性を求める解析手法。
コントロールポイント	（応答スペクトル法における）応答スペクトルの折点となる周期。
砂岩	主に砂が固結してできた岩石。
最大要素高さ	有限要素法において、地盤の固有振動数や地盤の固さ等によって決まる解析モデルの要素（メッシュ）の高さの最大値のこと。
3次元応答性状	外力が加わったとき、3次元（縦横高さ方向）的にどのように動くかという性質及び状態を表したものの。
シーケンシャル	順次、または逐次的な。
シーム	岩石構造に関して、細かい割れ目が発達し、一部軟質化しているが、著しい乱れが認められないもの。

用語・略語（対応英語）	説明
時刻歴解析	時々刻々の地震動(加速度)を地盤や構造物に与え、時々刻々の地盤や構造物の挙動を求める解析手法のこと。
時刻歴波形	時々刻々変化する地震の揺れを表す波形の一つ。耐震設計では、一般的に「加速度時刻歴波形」が用いられる。
事故シーケンス	炉心（燃料）の著しい損傷に至る可能性のある事故のシナリオを、起因事象、安全設備や緩和操作の成功・失敗などの組合せとして表したものの。
地震応答解析	地震力に対して、地盤や建物・構造物の各部がどのような力を受けたり、変形するかを解析する手法。地盤や建物・構造物を適切なモデルに置き換え、相互作用を考慮した上で、設計用の地震力を入力し、コンピュータ計算により、地盤や建物・構造物の各部が受ける力と揺れの大きさを算出する。
地震ハザードステーション	「全国地震動予測地図（将来日本で発生する恐れのある地震による強い揺れを予測し、その予測結果を地図上に表したものの）」の作成に用いた詳細なデータを公開するシステムのこと。
実効増倍率	原子炉内で単位時間あたりに消滅する中性子数と生成する中性子数の比を増倍率といい、原子炉容器からの中性子の漏れを考慮した時の増倍率を実効増倍率という。
質点系モデル	地震解析を行う際に用いる物体の中心に、全質量が集まっていると見なして、モデル化したもの。
終局耐力	構造物に対する荷重が漸次増大した際、構造物の変形又は歪みが著しく増加する状態を構造物の終局状態と考え、この状態に至る限界の最大荷重負荷のこと。
重大事故等（対策）の有効性評価	重大事故等が発生したことを想定し、原子炉や格納容器内の冷却など重大事故等対策が有効に機能し、その安全性が確保できることを確認すること。
しゅうどう 揺動	すべり動くこと。
ジョイント要素	地盤の有限要素法解析モデルにおいて、軸方向及びせん断方向の挙動を取り扱うために設定する要素のこと。

用語・略語（対応英語）	説明
ジルコニウム－水反応	冷却材喪失事故などで炉心（燃料）が高温になると、燃料被覆管に用いられているジルコニウムと水が化学反応を起こし、水が分解されて水素が発生すること。（反応式： $\text{Zr} + 2\text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{ZrO}_2 + 2\text{H}_2$ ）
震源球	断層面と地震波の向きを、球で表現したもの。
振幅包絡形状	地震動の時間的变化を、振動の振幅と時間軸に対して規定する包絡線のこと。マグニチュードや継続時間により定められた経験式により求められる。
水素の成層化	格納容器内で発生した水素が格納容器上部等で滞留して、蓄積すること。
水素爆轟	水素の燃焼によって、火炎の伝播速度が音速を超える現象。衝撃波を伴う。
水素分圧	多成分からなる混合気体において、水素の成分が混合気体と同じ体積を単独で占めたときの圧力。
水密ブーツ	試験等により止水性が確認された配管貫通部に設置するブーツタイプの止水設備のこと。
スカイシャイン線	放射線源から出た放射線のうち、大気によって散乱され、地上に到達する放射線。
スペクトルインバージョン	地震の揺れの特性 A は、震源特性 S、伝播経路特性 P、サイト特性 G の積「 $A = S \times P \times G$ 」で求められるが、複数の観測点で得られた複数の地震の観測記録 A を用いて、震源特性 S、伝播経路特性 P、サイト特性 G を逆に求める解析手法のこと。
スペクトルモーダル法	建物や配管のように複数の支持点がある物体において、各支持点で生じる固有周期などの応答を重ね合わせることにより発生する応力などを算出する方法。
スロッシング	容器内の液体が外部からの比較的長周期な振動によって揺れ動くこと。
静的地震力	動的地震力を一定の力に置き換えた地震力。
積算流量計	配管に流れた水の量を累計する計器。
設計地震力	基準地震動による地震応答解析により求めた地震力と静的地震力を包絡し、裕度を考慮して設定した地震力。
接地圧	建物等の構造物から地盤へ作用する単位面積当たりの垂直荷重のこと。

用語・略語（対応英語）	説明
前駆現象	ここでは、大規模な地震・火山等の自然災害の前触れと考えられる現象の総称。
線偏向	地震による揺れの軌跡が、線形（線分）に偏ること。
相対変位	別々の建物や異なるフロアに配置されている配管などが、地震に伴う建屋の動きによって生じる相対的な変位のこと。
想定すべり線	地盤のすべり安定性評価において、地盤の地質・土質条件や発生応力の状態を踏まえ、想定するすべり線のこと。
相反定理	二つのものを入れ替えても同等であるということを示す定理。
塑性ひずみ	外力によって生じたひずみのうち、外力を取り去ってもそのまま残留するひずみのこと。
卓越振動数	地盤の振動特性の一つで、地盤の固有振動数のこと。
短周期／長周期	揺れが1往復するのに要する時間が短いものを短周期、長いものを長周期という。
弾性設計範囲	地震力を加えたときに生じていた建物や機器のひずみが、地震力を加える以前の状態に戻るという弾性状態の範囲内に設計すること。
弾性設計用地震動	地震による力が作用しても、その力が除かれたとき、建物や機器がもとの形に戻るよう設計するときに用いる地震動。
断層傾斜角	断層面が水平面からどれだけ傾いているかを表す角度。
ディレクティビティ	断層破壊が高速で伝播することにより、地震波の振幅が方位によって異なること。
チェッカープレート	道路の側溝の蓋などに使用される表面に連続した滑り止め用の突起を付けた鋼板。
地下構造モデル	地震動を評価する際、伝播経路特性や地盤に及ぼす影響を適切に評価するために策定するモデルのこと。ボーリングデータなどから、地層の層厚、傾斜、密度、地震波速度や減衰定数などを設定する。
低圧注入系	非常用炉心冷却設備の一つ。冷却材喪失事故時に原子炉の減圧後に有効に機能する注水設備。低圧注水系ともいう。
低エネルギー配管	プラントの通常運転時に運転温度が95℃以下で、かつ運転圧力が1.9MPa(ゲージ圧力)以下の配管。

用語・略語（対応英語）	説明
定格圧力	炉心で発生する熱を一定に保って運転したときに発生する圧力のこと。
等価線形化法	地盤等の非線形性の効果を線形解析にて近似解を求める手法のこと。
統計的グリーン関数法	ある期間内で実際に発生した小さな地震の観測記録を統計処理し、人工的に時刻歴波形を作成し、それを足し合わせて大きな地震による揺れを計算する方法のこと。
同時加振	水平方向及び鉛直方向の地震動を同時に考慮すること。
同斜構造	一連の地層が、同じ傾斜で同じ方向に傾いている地質構造のこと。
動せん断弾性係数	せん断応力のせん断ひずみに対する比のこと。
動的地震力	地震動を入力とした動的な地震応答解析により求められる地震力。
特性化震源モデル	震源の断層面をモデル化したもので、地震時に特に大きな揺れを放出する領域であるアスペリティとそれ以外の背景領域とからなるモデル。
ドップラ係数	ウラン燃料の温度が上がると、燃料中の核分裂しにくいウラン 238 が中性子を吸収し易くなり、その結果、核分裂しやすいウラン 235 の核分裂反応が減り、原子炉の出力が自然に下がる。この効果をドップラ効果という。 ドップラ係数は、このドップラ効果を定量的に表したもので、燃料の温度が 1℃上昇したときの反応度の変化を表す。
粘性境界	ある有限の大きさの地盤モデルを設定した際、地震による振動エネルギーの一部が地盤モデルの外に逃げていく現象（逸散減衰）を表現するため、地盤モデル端部（境界）に減衰、すなわちエネルギーを吸収する緩衝材を設定すること。
ハイブリッド合成法	短周期領域の評価に適している経験的グリーン関数法又は統計的グリーン関数法により計算した地震動と、長周期帯の評価に適している理論的手法により計算した地震動を組み合わせることで、広い周期帯で精度よく地震動を評価する手法のこと。

用語・略語（対応英語）	説明
破壊指向性パルス	断層破壊の進行方向、断層面の直交方向に現れる破壊力が非常に大きいパルス。震源アスペリティで発生する。
剥ぎ取り解析	地表もしくは地中で得られた地震観測記録から、表層の軟らかい地盤の影響を取り除き、硬い地盤の表面における地震動を推定する解析手法。
破局的噴火	100km ³ 以上の火山灰や岩石等の噴出物を伴う噴火。
ハザード曲線	原子力規制委員会が作成した「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に基づいて、竜巻の年発生数の確率分布及び竜巻最大風速の確率密度分布から作成される曲線。
波数積分法	震源の破壊の仕方や周辺地盤の揺れの伝わり方などの条件を設定して、地震による揺れを計算する手法。
（格納容器）破損モード	著しい炉心（燃料）損傷後に格納容器の破損及び発電所外への放射性物質の異常な水準の放出に至る可能性のある事象を、格納容器への負荷の種類に着目して類型化したもの。
破断延性限界	金属などの物質に引っ張りの力を加えたとき、引き延ばされる性質を延性というが、さらに力を加え続け、物質が破断に至る限界点のこと。
パルス（波）	短時間に急な変化をする波。
ハロン消火設備	ハロンガス（フッ素と臭素を含むハロゲン化炭素の総称）を消火剤として使用する消火設備。設計基準対象施設及び重大事故等対処施設を設置する火災区域・区画で火災が発生した場合の消火設備として設置。
反応度	原子炉が臨界状態からずれている程度を示す量。反応度が負の場合は、時間とともに中性子の数が減少し、原子炉の出力が低下する。
半無限成層地盤	同一の地層が水平方向に無限に広がると仮定した解析上の地盤のこと。
ヒートシンク	原子炉内や使用済燃料ピット内の燃料などから発生した熱を逃がす場所のこと。

用語・略語（対応英語）	説明
微視的パラメータ	断層モデルを用いた手法による地震動評価では、震源の特性を表現する詳細な震源パラメータが必要であり、ここでの微視的パラメータとは、震源断層面での細かな特徴を表すもの。アスペリティの位置・個数・面積等がある。
微動アレイ探査	複数の振動観測機器を一定の間隔をにより地表に設置し、地表付近で発生している微小な振動を測定する調査のこと。測定したデータを分析することで、地下構造の確認を行う。
ひんがん 玢岩	火成岩（マグマが冷えて固まったもの）のうち、鉱物の結晶が大きいもの。
4 ループ	原子炉容器、蒸気発生器、1 次冷却材ポンプ及びそれらを連絡している原子炉冷却系配管の一連の系統をループというというが、そのループが4つあること。玄海3、4号機は4ループである。
副振動	湾や海峡などで発生する海面の振動現象のこと。振動の周期は数分から数十分で、湾や海峡の深さや大きさなどの形状によって異なる。
復水タンク	重大事故等時に炉心（燃料）等を冷却するための給水源となるタンク。
藤田スケール	藤田哲也博士が考案した竜巻の規模を表す指標。藤田スケール（F-Scale）では、通常、F0～F5 までの区分が用いられ、区分ごとに風速の範囲が定義されている。
物性値	密度や体積など物質が持っている性質をある尺度で表したもの。
不等沈下	地盤が均等に沈下せず、異なるフロアに配置されている機器や配管の沈下量が異なること。
フラジリティ	地震動の作用に対して建屋・機器が損傷する度合い。
フリングステップ	地表断層のごく近傍における長周期で卓越する断層すべりのこと。
（放射性）プルーム	環境中に放出された気体状あるいは粒子状の放射性物質が、大気とともに雲のように流れる状態。
プルサーマル	原子力発電所で使い終わった使用済燃料の中から、まだ燃料として再利用できるプルトニウムを取り出し、ウランと混ぜてつくった MOX 燃料を、既存の原子力発電所で利用すること。

用語・略語（対応英語）	説明
崩壊熱	燃料の核分裂の結果生じた核分裂生成物が、崩壊する際に放出するエネルギーが熱に変わったもの。原子炉を停止した後でも、核分裂生成物は崩壊を続け、熱を発生するため、停止した後も冷却を続ける必要がある。
放射パターン／ラディエーションパターン	地震波の振幅や向きは、地震波が進む方向に関して一定の規則性をもって分布しており、この規則的分布のこと。
曲げせん断棒モデル	高層建物の地震応答解析する際に、高層建物の各階を質点系モデルに置き換えた多質点系モデルのこと。地盤と建物の相互作用を考慮して、解析を行うことで、地震力を与えたときに各質点を受ける力や揺れの大きさを求める。
マンメイドロック	コンクリート製の人工岩盤のこと。
モーメントマグニチュード	岩盤のずれの規模をもとにして計算した地震規模のこと。マグニチュード（気象庁マグニチュード）は地震計で観測される波の振幅から計算されるが、規模の大きな地震になると岩盤のずれの規模を正確に表せないことからモーメントマグニチュードを用いる。
模擬地震波	応答スペクトルに対応するように作成した地震波。構造物の耐震設計に使用する。時刻歴波形ともいう。
床ドレンライン	床面に漏れ出た水を収集・排水する系統。
要素地震	断層モデルを用いた手法による地震動評価では、断層面全体を小断層面に分割し、破壊の進展に応じ、小断層面から発生する地震波形を重ね合わせて評価を実施する。要素地震は、小断層面から生じる地震波形を作成するために各小断層に当てはめる地震のこと。
ライナー	PCCVの内張りの鋼材のこと。これにより気密性を確保している。
リークパス	ここでは、放射性物質の漏えい経路のこと。
力量管理	個々の業務に必要な技能、知識、資格、経験等の能力を力量といい、教育や訓練によってその力量を身に付けさせ、管理すること。

用語・略語（対応英語）	説明
リニアメント	活断層等に起因した可能性がある地形のこと。谷や崖などが、直線または緩やかな曲線に配列する地形的な特徴を有する。
リヒター・グーテンベルクの ^{べきじょうそく} 幕乗則	地震の規模と発生頻度の関係を表す法則。
リロケーション	溶融した炉心（燃料）が下方向などに移動すること。熱応力で割れた燃料ペレットの破片が、被覆管内で移動する現象をいう場合もある。
露頭	岩石や地層が土壌などに覆われないで、地表に現れている所。
炉年	原子炉 1 基の稼働年数。原子炉 1 基が 1 年稼働した場合、1 炉年という。
AM (Accident Management)	アクシデントマネジメントの略語。 炉心（燃料）の健全性が脅かされるようなシビアアクシデント（過酷事故）のリスクを低減するための、体制の整備、手順書類の整備、教育及び設備の対策。
A T W S (Anticipated Transients Without Scram)	原子炉停止機能喪失の略語。 運転時の異常発生により緊急停止が要求されたにも関わらず、原子炉を停止させるシステムの故障のため緊急停止しない事象。
C C W (Component Cooling Water)	原子炉補機冷却水の略語。 原子炉の運転に必要なポンプや非常時に炉心を冷却するポンプなどの補機を冷却するための冷却水。
CMT解 (Centroid Moment Tensor)	セントロイド・モーメント・テンソル (Centroid Moment Tensor) の略語。観測された地震波形に関する地震の位置（セントロイド）、規模（モーメント・マグニチュード）、及び地震を起こした断層がどのように動いたのかを示す発震機構（メカニズム）を同時に求める解析法。
C V (Containment Vessel)	格納容器の略語。 燃料が収められた原子炉容器や蒸気発生器など、重要な機器を覆っている容器
C V スプレー系 (Containment spray system)	格納容器内の圧力が上昇した場合、格納容器上部より水を散布することにより、格納容器内の蒸気を冷却して凝縮させ、内圧を下げるための一連の設備（系統）のこと。

用語・略語（対応英語）	説明
D 9 0	地殻内で地震が発生する深さは一般にある特定の深さ範囲（地震発生層）に限定されており、その深さ範囲の下限を表す目安の1つ。地殻内で起きる総地震の90%が入る深さとして定義。
D B A (Design Basis Accident)	設計基準事故の略語。 発電用原子炉施設の特性を表す想定上の事故であって、従業員及び近隣の公衆に対する放射線の影響の観点からみて十分典型的とみなされるもの。
D B 施設	設計基準対象施設の略語。 発電用原子炉施設のうち、運転時の異常な過渡変化又は設計基準事故（DBA）の発生を防止し、又はこれらの拡大を防止するために必要となる施設。
E C C S (Emergency Core Cooling System)	非常用炉心冷却系の略語。 原子炉内の炉心（燃料）を冷却する原子炉冷却材（水）の喪失が起こった場合に、冷却水を原子炉内に注入し、炉心を冷却する装置。
E L. (Elevation)	エレベーション。標高。
F - n e t (Full Range Seismograph Network of Japan)	独立行政法人防災科学技術研究所による日本全国の約80箇所に整備された広帯域地震観測網のこと。
F C I (Fuel Coolant Interaction)	燃料冷却材相互作用の略語。 燃料が溶融し、冷却材（水）と直接接触することによって、溶融燃料の熱量が冷却材に急激に伝わる、溶融燃料と冷却材間の熱的な相互作用。
F E M (Finite Element Method)	配管などの耐震性評価において、コンピュータによる解析を行う際に用いられるモデルの一つ。複雑な形状・性質を持つ物体を小さな要素に分割し、地震力によって配管などに発生する応力を計算する。有限要素法ともいう。
G E O N E T (GNSS Earth Observation NETwork system)	国土地理院が所有している全国約1,200点の電子基準点の動きを1秒ごとにリアルタイムで連続観測するシステム。
G N S S (Global Navigation Satellite System)	全球測位衛星システム。GPS等の衛星測位システムの総称。

用語・略語（対応英語）	説明
G W d / t (読み：ギガワット・デイ・パー・トン)	燃料の燃焼度の単位。燃料 1 t 当りに発生したエネルギー量。1 G は 1×10^9 を表す。
J E A G (Japan Electric Association Guide)	原子力施設の設計、建設、運転、廃止に関する民間規格のうち、電気技術指針のこと。
K - N E T (Kyoshin Net)	全国強震観測網のこと。国立研究開発法人防災科学技術研究所（防災科研）が運用している。全国を約 20km 間隔で均質に覆う 1,000 箇所以上の強震観測施設からなる強震観測網をいう。
K i K - n e t (Kiban-Kyoshin Net)	基盤強震観測網のこと。全国にわたる総合的な地震防災対策を推進するため、政府の地震調査研究推進本部が推進している「地震に関する基盤的調査観測計画」の一環として、防災科研が、高感度地震観測網（Hi-net）と共に整備した強震観測網をいう。
L O C A (Loss of Coolant Accident)	原子炉冷却材喪失事故の略語。 原子炉につながる配管などが破損し、原子炉冷却材が流出する事故。
M A A P (Modular Accident Analysis Program)	シビアアクシデント（重大事故）時のプラントの圧力や温度等の動きを解析するために、原子炉等をモデル化し、計算機を用いて圧力・温度等の評価項目の挙動を解析するプログラム（解析コード）の一つ。
M C C I (Molten Core Concrete Interaction)	熔融炉心コンクリート反応の略語。 炉心熔融が進展し、熔融炉心が原子炉容器底部を熔融貫通することにより、格納容器下部のコンクリート部に落下し、熔融炉心とコンクリートが反応すること。
M O X（燃料） (Mixed OXide fuel)	混合酸化物燃料のこと。 酸化ウランと酸化と酸化プルトニウムを混合した核燃料。プルサーマル発電でも使用する。
N U R E G (US Nuclear Regulatory Commission Regulation)	米国原子力規制委員会の規制の略語。
O R I G E N (ORNL Isotope Generation and Depletion Code)	O R N L（米国オークリッジ国立研究所）で開発された、放射性同位体生成・消滅を計算するプログラムの略語。
P A M 計器 (Post-Accident Monitoring)	事故時監視計器の略語。 事故時においても、プラント状態が監視できるよう耐環境性に優れた監視計器。

用語・略語（対応英語）	説明
P A R (Passive Autocatalytic Recombiner)	静的触媒式水素再結合装置の略語。 金属触媒により、水素と酸素を反応させ、水にすることで、水素濃度を低減する装置。
P C C V (Prestressed Concrete Containment Vessel)	プレストレスト・コンクリート製原子炉格納容器の略語。 プレストレスト・コンクリートとは、予め応力を与えられたコンクリートという意味である。コンクリート内部にテンドンと呼ばれる P C 鋼線を使用し、予め原子炉格納容器全体を締め付けることで、事故時の内圧上昇に耐えるよう設計したもの。
P C 鋼線	プレストレスト・コンクリートを締め付けるための鋼材。
P R A (Probabilistic Risk Assessment)	確率論的リスク評価の略語。 発生する可能性のある様々な事象について、その発生確率と影響の大きさを考慮して安全性を評価する手法。確率論的安全評価（略号 PSA）ともいう。
P S 検層	ボーリング孔を利用して地盤内を伝播する初期微動を表す P 波、主要動を表す S 波の深さ方向の速度分布を測定すること。
Q 値	地震による揺れの減衰の程度を示す指標。この値が大きいほど減衰し難いことを意味する。
R C P (Reactor Coolant Pump)	1 次冷却材ポンプの略語。 1 次冷却材（水）を循環させるためのポンプ。
R C P シール (Reactor Coolant Pump Seal)	1 次冷却材ポンプシールの略語。 1 次冷却材ポンプの軸部からの冷却材の漏えいを防ぐために施しているシール（封印部分）。
R V (Reactor Vessel)	原子炉容器の略語。 炉心（核燃料）及び炉内構造物を納める容器。
R W S T (Refueling Water Storage Tank)	燃料取替用水タンクの略語。 原子炉から燃料を使用済燃料ピットへ取り出したり、再び原子炉へ装荷したりするときに使う水を貯めるタンク。事故時には、炉心（燃料）を冷却するための水源となる。
S A (Severe Accident)	シビアアクシデントの略語。 設計基準事象を大幅に超える事象であって、炉心の重大な損傷に至るもの。重大事故ともいう。

用語・略語（対応英語）	説明
S B O (Station BlackOut)	全交流電源喪失の略語。 非常用ディーゼル発電機や発電所外からの交流電源の供給がなくなり、発電所の全ての機器へ交流電源を供給できなくなる事象。
S F P (Spent Fuel Pit)	使用済燃料ピットの略語。 原子炉で燃やした後の燃料である使用済燃料を、放射能が必要なレベルに減少するまで安全に貯蔵・保管するための水槽（プール）。使用済燃料プールともいう。
S G (Steam Generator)	蒸気発生器の略語。 原子炉から取り出した熱で蒸気を発生させる熱交換器。発生した蒸気でタービンを回し発電する。
S G チューブラプチャー (Steam Generator Tube Rupture)	PWR では、蒸気発生器の伝熱管を介して、原子炉容器を通して水を循環させる系統（１次系）とタービンへ蒸気を供給する系統（２次系）が完全に分離されている。 この伝熱管が破損し、１次系の放射性物質を含んだ高圧の水が２次系に漏れだす事故のこと。
S M G A (Strong Motion Generation Areas)	(→アスペリティ)
S/N比	信号（Signal）と雑音（Noise）の比率。
T B q (テラ・ベクレル)	B q は、放射性物質が１秒間に崩壊する原子の個数を表す単位。１ T B q は 1×10^{12} B q。
T M I (Three Mile Island)	アメリカ合衆国のスリーマイル島のこと。1979 年 3 月 28 日にスリーマイル島原子力発電所 2 号機で発生した重大な原子力事故のことをスリーマイル島（Three Mile Island）の頭文字をとって TMI 事故と略称される。
V s	地震発生時に観測される揺れには、初期微動を表す P 波と主要動を表す S 波があるが、このうち、V s は S 波の速度をいう。せん断波速度ともいう。
δ モード	格納容器破損モードの一つ。格納容器過圧破損に該当するもの。